

■ 書 評 ■

今日の精神疾患治療指針

樋口輝彦，市川宏伸，神庭重信，朝田 隆，中込和幸 ● 編

東北大学名誉教授 佐藤光源

『今日の治療指針』は日常診療の実用書として既に定評があり，毎年，項目と執筆者を替えて改訂されている。しかし精神疾患のページ数と項目は限られていて，日頃出会う精神疾患の治療指針としてはかなり制約がある。

本書は，それを克服した『今日の治療指針』の精神疾患版で，一般診療に向けた具体的な治療指針が網羅されている。23章341項目で構成され，第一線で活躍中の300人を超えるエキスパートが執筆している。薬物療法と心理社会療法を組み合わせることで症状を改善し，社会的機能を高めるところに精神疾患治療の特徴があるが，それを従来の『今日の治療指針』と同じスタイルで編集したことは画期的といえる。

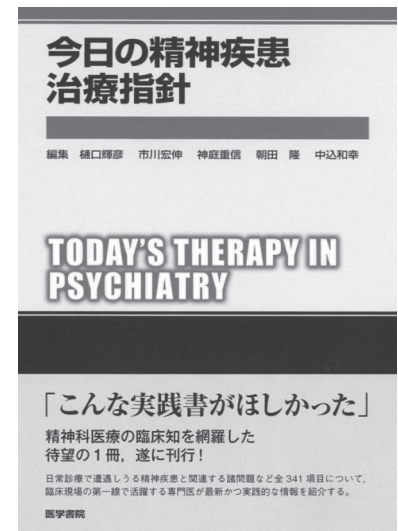
近年，うつ病や認知症が右肩上がりに増加したこともあって，精神疾患の患者数は320万人（2008年）を超えている。このため，社会保障審議会は精神疾患を「社会を挙げて取り組むべき疾患」と位置づけ，精神疾患を糖尿病や癌など4疾病に加えて5疾病5事業とし，前年度から国の医療計画に反映させることが決まったところである。また，精神疾患の長期転帰を改善できる早期介入や回復した人の社会的自立を促すために，精神疾患の正しい理解の普及

啓発が急がれており，疾患概念と治療指針をわかりやすくまとめた本書の登場はまことに時宜になっている。

なぜ，本書の企画が可能になったのだろうか。それは，診断学や病因・病態の解明が進み，疾患概念が見直され，薬物選択アルゴリズムの普及，心理社会療法の進歩，治療ガイドラインの充実など，近年精神医学が長足に進歩したからにほかならない。本書はそうした最新の知見を踏まえながら，①症候，主訴からのアプローチ，②精神疾患の治療指針（統合失調症，気分障害，神経症性障害，パーソナリティ障害，認知症，心身症など15項目と身体合併症の治療），③精神科面接，診断と検査，精神科治療法，精神科救急，精神科リハビリテーションの解説，④自殺予防，予防と早期介入など21のトピックスで構成されている。

エキスパートが「私はこう治療している」とした治療指針には，薬物処方例はもちろん，心理社会療法，患者・家族への説明のポイントが記載されていて，精神疾患に特化した『今日の治療指針』を特徴づけている。また，治療指針に先だって，疾患概念，病因・病態，診断のポイントが明解にまとめられている。

精神疾患の保険病名は国際疾病分



類（ICD-10）の「精神および行動の障害」に準拠しているが，病因・病態を除外した疾病分類なので，病態に則した治療指針に結び付きにくい。本書は，そうした日常診療の場で治療方針を立てるのに便利である。

ただし保険診療に限ってみると，エキスパートの処方例に保険適応外の処方が身体疾患に比べて多い傾向があり，疾患によってはすべて保険適応外の場合もある。保険適応病名の見直しにかかわる問題であるが，薬物選択の際に留意しておく必要がある。

今後さらに改訂を重ねていくのであろうが，本書はその初版である。一般診療における精神疾患治療の手引きとして推奨できる実践書であり，広く活用されるに違いない。

A5 頁1,012 2012年
定価14,700円
(本体14,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-01380-2]

医学書院刊